

日本体育学会第63回大会 体育方法専門領域ワークショップ報告  
—日本体操学会との共同企画—

日時 2012年8月23日(木) 12:40~14:00

場所 15号館4階第1会議室

### 3.11震災後に体操でしてきたこと、これからできること

長谷川 聖修<sup>1)</sup> 後藤 洋子<sup>2)</sup>

昨年、本専門分会は、初めて実践系学会であるテニス学会と連携してワークショップをオン・コートで開催した。今年は、震災対応をテーマとして、日本体操学会と連携で、被災地での体操指導・運動指導を中心に取り上げた。

東日本大震災は、実践系の体育分野にとって、その存在意義を問いかけるものであった。未曾有の大災害であったが、これをネガティブに捉えず、これまで抱えてきた様々な課題を前向きに解決していく機会と考えた。本学会開催時には、およそ1年半が経過するので、震災直後とは異なる役割とこれに応じた指導内容が問われるであろう。

被災地である宮城県では、地元の仙台大学・地域健康づくりセンターが中心となって、その専門性を活かした支援活動に取り組まれた。その中心的なメンバーである岩垂氏に、その活動概要とこれからの課題につ

いて紹介していただいた。大学の組織として人材育成システムを作り、学生達のインターンシップの場としてボランティア活動を位置づけている点は優れた取り組みであった。

また、茨城県の筑波大学は、東北地域に近いことから、体育系分野は積極的に被災地へ入り、様々な観点から支援に当たってきた。また、現在、つくば市には福島県から避難された方が数多く在住し、体操教室などを通じて交流を深めてきた。こうした具体的な取り組みについて長谷川より実践内容が紹介された。

当日は、およそ40名が参加し、それぞれの活動内容を熱心に聞いていた。その後、実際にワークショップを通じて、被災地での活動内容を体験して理解を深めた上で、意見交換がなされた。

ワークショップの様子は以下の通りである。



簡単な体操は、頭の体操にもなる



歌いながら動くと気分が乗って楽しくなる



ラジオ体操もペアやグループで動くと自然に笑顔になる